して生産性を上げていくか，単にカントリー・スコアリング業務のみならずさまざまな業務についての検討がなされていくであろう．

参 考 文 献

［1］ 日本輸出入銀行海外投資研究所：カントリー・リスク問題へのアプローチ，1980年5月．

［2］ 吉川元忠：開発途上のカントリー・リスク分析手法（上，下），金融財政事情，1979.6.

［3］ 渡辺長雄：米銀のカントリー・リスク評価と日本の現状（上，中，下），金融財政事情，1978.9.

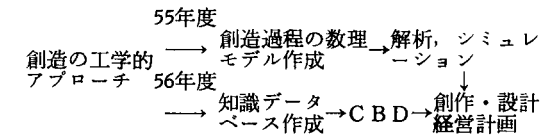
［4］ 日本興業銀行計量システム室：海外銀行におけるカントリー・リスク分析，1976.9.

［5］ 日本貿易振興会：カントリー・リスクの測定・評価，1979.4.

●創造性開発の数学モデルとCBD●

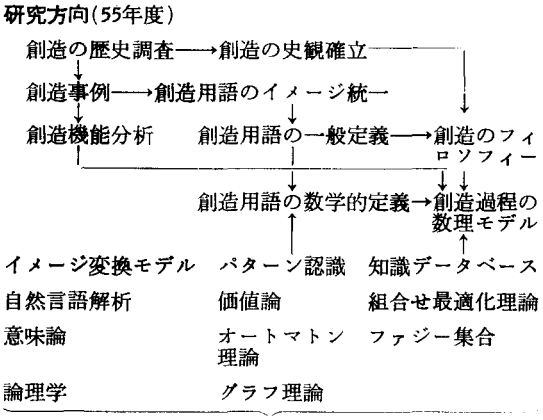
秋季大会に当研究部会もペーパー・フェア形式で参加し，今川副会長，高橋編集委員長，渡辺筑波大学教授をはじめ多くの方から有益なアドバイスをいただいた．ここで発表した会の目的，研究の方向を図示しよう．

目的



ここでCBDとはCADに創造機能を付加，知識データベースを有し，イメージを画きやすいハード，ソフトをそなえたものをいう．

研究方向(55年度)



会員数19名．55年度は11月まで講師を招いて知識を広ろげ（open system ゆえ会員外の方もご参加自由），12月以降は研究討議(closed system)．56年度は同様な形式の予定．

- **第5回** 55年9月16日(火) 発明王エジソン研究所のあるルトガース大学からはるばる石川昭氏来日講演．(参加者：10名，司会：佐々木)
- **第6回** 55年10月16日(木) ファジー集合を用いた合意形成について東京理大・田崎氏の講演．ブレーンストーミングでは必ずしも合意しなくてもよいが，他人の言葉が刺激となって創造物を形成する．(参加者：12名，司会：寺山)
- **第7回** 55年11月20日(木) 知識データベースについて東京理大・溝口氏の講演．(参加者：11名，司会：越智)

創造は鬼のような極度の思考集中とふとした気まぐれの思考分散の適当なミックスで可能となる．鬼がクスッと笑ったら新製品が開発される．来年度の予定講師は次の通り．

4月 富士通国際社会情報研・国藤進氏「対話型創造活動支援システム」(司会：藤原)

5月 早大システム研・五百井清右衛門氏「創造とOR」(司会：山田)

6月 東京理大・石本新氏「モンテギュー文法」(司会：石鍋)

7月 東京理大・佐伯胖氏「きめ方の論理」(司会：広内)

9月 東京理大・上坂吉則氏「パターン認識とイメージ」(司会：坂本)

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．